



(六〇分)

第1問 次の文章を読んで、後の問い(問1～12)に答えよ。

著作権の都合上、省略。

著作権の都合上、省略。

善作権の都合上、省略。

〔池澤夏樹「科学する心」にちよる〕

〔注1〕鼠の嫁入り——鼠の夫婦が娘に天下一の婿を取ろうとして、太陽、雲、風、雪を訪ねてまわるが、結局は鼠が一番偉いということになり娘は同じ仲間の鼠と結ばれるという話。

〔注2〕ヨブ——旧約聖書に登場する人物で、恵まれた資華と家庭的幸福を突然に失い、多くの苦難に遭うが、最後に神の信仰にたどり健康と財産とをとりもどす。

〔注3〕バージェス動物群のアノマロカリスやハルキゲニア カンブリア紀に生息した生物で、レトラも化石から奇妙な姿形をしていたことがわかっている。

* 問題作成上の都合により、本文の一部に手を加えてある。

問1 傍線部a～eのカタカナと同じ漢字を用いるものを、各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

解答番号は、a.

1

 e.

5

。

a ジノイ	1	① 情報のカジジを求める。 ② 外出をジシユクする。 ③ ジゼンの旅を講じる。 ④ 旅先のプジを析る。 ⑤ ジリユウに乗って成功する。
b ドウハイ	2	① ハイグウ者の有無を記入する。 ② 差別的発言をハイジヨする。 ③ 優れた学者をハイシニツした大学。 ④ 夏は食品がフハイしやすい。 ⑤ 戦争で人心がコウハイする。
c キビ	3	① 共同体には道徳上のキンキがある。 ② 世界の平和をキキユウする。 ③ 応援されて選手がフンキする。 ④ 人生のキキを乗り越えていく。 ⑤ キソンの価値観にとらわれる。
d シキシヤ	4	① 自宅のシキチに池がある。 ② 会社のソシキに問題がある。 ③ シキサイ豊かに描かれた風景画。 ④ 一流ホテルはカクシキが高い。 ⑤ 家畜の個体をシキベツする。
e ジゴウ	5	① あまりの悲しさにゴウキユウする。 ② 計画をゴウインに進める。 ③ ヒゴウの最期を遂げた武将。 ④ 権力者にゲイゴウする。 ⑤ ゴウマンな態度で人を見下す。

問2 次の一文が入るべき箇所を、本文中の【1】～【3】のうちから一つ選べ。解答番号は、

6

。

【その安直な誘惑に背を向けるのが科学である。】

問3 傍線部ア～垂水雄二によれば」とあるが、筆者は垂水氏の論のどのような点に着目しているのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は、

7

。

- ① 生物には驚くほどの多様性があること。
- ② すべての生物にDNAが備わっていること。
- ③ 生物を構成する元素は数十種類くらいしかないこと。

- ④ すべての生物に本質的な共通性があること。
- ⑤ 生物には多様性という普遍的な原理があること。
- 問4 傍線部「このように例によってほくほくサビエンスの優位という神話を壊したい」とあるが、「このように例」の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 8。

- ① 人間が合理的な道徳観を設計するのに粘菌の手を借りねばならないように、ヒトが最も優秀な生物であるとはいえないことを示す例。
- ② ミツバチが一人の母と数万人の姉妹で次世代を育てるように、共同体が子孫の世話をすることによってより繁栄していることを示す例。
- ③ 人間が同僚と自分の給料の微細な差異まで注目することができるよう、ヒトには哲学を生み出すほどの高い知性があることを示す例。
- ④ 粘菌が栄養物質を最も効率的に運ぶことができるように、ヒトより下等だと見なしている生物に比べて高い能力があることを示す例。
- ⑤ 高等生物が個体という形を取って生きているように、子孫繁栄のために個の生存を優先することを生命の原理が要求することを示す例。

- 問5 空欄 X に入る最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 9。

- ① 自分たちはヒトであると同時に人間であるという矛盾を抱えている問題
- ② 自分たちの優位にばかり目がいつてしまふ高等生物であるがゆえの問題
- ③ 自分たちも種の一つであるがゆえに偏見から逃れられないという問題
- ④ 自分たちは共同体に属しても個体として生きねばならぬ二律背反の問題
- ⑤ 自分たちは高等生物であるという意識が強く配慮に欠けるという問題

- 問6 傍線部「一般の人々は『進化したケータイ』という広告を信じる」とあるが、これはどのようなことを表しているのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 10。

- ① 最新機種「ケータイ」が現行機種にはない機能を加えただけとしても、「進化したケータイ」という文句によって、その機能が最も重要だと人々が思い込まれること。
- ② 「進化したケータイ」という言葉によって、最新機種のケータイは現代に適した機能が備わり従来のものより性能が優れているというように、人々が無批判に受け入れること。
- ③ 「進化したケータイ」という広告を信じ、革新的な技術が開発されて今までは仕組みの異なるケータイが新しく誕生したのだと、人々が自分勝手に想像してしまうこと。
- ④ 最新機種のケータイが必要な人はほとんどいないのに、「進化したケータイ」という広告に踊らされて、最新機能を使いこなせない時代遅れになると人々が誤解すること。
- ⑤ 古いケータイをガラパゴス島の生物になぞらえガラケーと呼ぶのに加え、最新のケータイを「進化したケータイ」と呼ぶことで、人々がダーウィンの進化論を信奉すること。

- 問7 傍線部「最新の例では右端の人間は机に向かってコンピュータをいじっていたりする」とあるが、ヒトの進化の図においてこれはどのようなことを表していると考えられるか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 11。

- ① 人間はヒトとして進化するといずれ人工知能に取って代わられるという悲観を表している。
- ② 人間が人工知能を備えたことがヒトとして進化していることの証左となることを表している。
- ③ 人間の生物としての進化は人工知能の使用と大きく関係する可能性があることを表している。
- ④ 人間の進化のスピードがコンピュータの出現によって加速していることを表している。
- ⑤ 人間はコンピュータを生み出し使いこなすほど進歩を遂げているという見方を表している。
- 問8 傍線部「絶滅のことを正面から考えなければならぬ」とあるが、筆者がこのように考えるのはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 12。

- ① 生物の「進化」において、自然選択によって種が絶滅するのは生物の宿命だから。
- ② 生物の歴史においては、「進化」ではなく退化して絶滅してしまう生物も多く見られるから。
- ③ 生物の「進化」を見ると、生き残るよりも絶滅してしまう生物のほうが圧倒的に多いから。
- ④ 生物は自然の摂理に従うものが「進化」と見なされるだけで、それ以外はすべて絶滅するから。
- ⑤ 生物は絶滅が必然であるからこそ、種の保存のために「進化」するといえるから。

- 問9 傍線部「この本によって文字通り驚かされた」とあるが、「驚かされた」とはこの場合、具体的にどのようなことを言うのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 13。

- ① 本を読んで初めて生物の進化についてじっくり考える気になったこと。
- ② 本を読むまではなかった視点で生物進化を捉えるようになったこと。
- ③ 本を読んでそれまで抱えてきた生物進化に対する疑問が解消したこと。
- ④ 本を読むことで生物進化に関する最新の発見を知ることができたこと。
- ⑤ 本を読むうちに全く無関心だった生物に興味をもつようになったこと。

- 問10 空欄 I・II に入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 14。

- ① I — 強者 II — 弱者
- ② I — 弱者 II — 強者
- ③ I — 適者 II — 弱者
- ④ I — 適者 II — 強者
- ⑤ I — 強者 II — 適者

- 問11 傍線部「吉川はこれをスポーツに喩える」とあるが、スポーツの喩えで吉川氏が述べようとしていることに当てはまらないものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 15。

- ① 生物は身体が大きいか環境の変化に対応するのが難しくかえって競争力は弱いこと。
- ② ある環境を生きているのに有利な身体は他の環境に対しては不利になる場合があること。
- ③ 環境が突然大きく変わってしまうと生物がすぐに適応するのは不可能に近いこと。
- ④ 生物進化を生きた競争という視点で捉えると生物の真の姿を見誤るおそれがあること。
- ⑤ 今ある生物は自然淘汰によって生き残った勝者だと考えるのは間違っていること。

- 問12 本文の趣旨と表現について説明したものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 16。

- ① 生物進化は理不尽なものであるという吉川氏の説に基づき、生物の絶滅について多様な例を挙げな

から科学的に分析し、人間を生物の中で優位に立つものと見なす考えは捨て去るべきだという筆者の自説を、体面止めや短い一文を印象的に用いて明快に主張している。

- ② 人間がすべての生物の優位に立つという考えを否定するために、吉川氏の説を援用して生物進化が理不尽なものであることを説き、最後にアインシュタインや佐野洋子の言葉に言及して信仰心について神の摂理と結び付けた筆者独自の解釈を示している。

- ③ 生物進化は偶然に左右された結果にすぎないという吉川氏の説を援用し、身近な例だけではなく民話や旧約聖書の話を踏まえた例なども比喩として断片的にちりばめながら、人間だけが生物として特に優れているわけではないという筆者の見解を述べている。

- ④ 人間とは何かを追究する文学者の立場から生物進化を捉えようとする筆者は、吉川氏の「理不尽な進化」に大きな影響を受けるが、身近な例や名言を根拠に、ヒトが人間である限り先入観なしに生物について考えることは難しいという結論に達している。

- ⑤ 自然選択という原理で捉えるダーウィンの進化論に対して、種の絶滅という観点から生物進化を捉えるべきだと主張する筆者は、進化は理不尽なものと考える吉川氏の説に依拠しながらも文学的な比喩を繰り返して、自然の摂理に従う生命の神秘に触れようとしている。

第2問 次の文章を読んで、後の問い(問11)に答えよ。

「社会学する」とは、どういうことだろうか？ それは、社会的な水準にさまざまな秩序(あるいは反秩序)を形成せざるをえないわれわれの経験が、どのような構成をとっているかを認識することである。要するに、それは、社会的であるほかにわれわれの経験がどのようなものであるかを(見る)ことである。(見る)ことは、ごく単純な作業に思われるかもしれない。それは、しばしば、(考える)ことよりも容易なことであると見なされている。(見る)ことは誰にでもできるが、(考える)ことは馬鹿にはできない、というわけだ。だがしかし、本当の困難は、(見る)ことにこそ、われわれの経験の社会的構成を(見る)ことにこそあるのだ。この困難は、もちろん、見られるべき対象——つまり経験の構成——の独特な複雑性に由来している。

I 柳田國男の「遠野物語拾遺」(角川文庫版「遠野物語」所収)に、サイロクされている次の説話は、経験を(見る)ということの困難を示すよい隠喩になっている。

(注1) 土浦村(とらふむら)内の久保の親音は(注2)馬頭親音である。その像を近所の子供らが持ち出して、前阪(まへさか)で投げ飛ばしたり、また桶(うけ)にして乗ったりして遊んでいたのを、(注3)別当殿(べっとうでん)が出て行って答めると、すぐにその晩から別当殿が病んだ。巫女(まじな)に聞いて見たところが、せっかく親音様が子供らと面白く遊んでいたのを、お節介(せつけい)をしたのがお氣にさわったというので、詫言(わごころ)をしてやっと病気がよくなった。この話をした人は村の新田鶴松(しんたはつしょう)という爺(おや)で、その時の子供の中の一人である。

この説話を引用してみたのは、ここに、最初の社会学とも呼ぶべき営みが記録されているからである。「最初の社会学」というのは、他の諸実践から区別された「社会学」としての固有的方法的な自覚を未だに獲得していないが、ここで分析されている当の社会学——遠野の共同体——の中では、今日の社会学がわれわれの社

会の中で果たしているのとウ。かな動きを担った知的な営みになっているということである。説話の中で、「(原初的な)社会学に対応しているのは、別当の病の原因を看破した巫女の。ドウサツである。」

もしここに社会学のAな形式を認めることができるのだとすれば、次のような見通しをうることができるだろう。すなわち、この共同体において一種の「社会学」がいかなる社会構造の下で可能になっているのかを、それ自身社会的に説明することを通じて、「(社会学する)」というこの構成を例示することができるに違いない。要するに、(遠野の共同体において)「社会学すること」を「社会学すること」を通じて、「(社会学すること)」の構造を具体的に示すことができるのではないだろうか。

この説話がただちに教えてくれることは、経験している世界の本当の姿を見るためには、Bなことがあるが、見ることを進めること、見ること自体から離れることが必要だ、ということである。つまり「見る」ことは、見るものの否定をも含んでいるのである。このことは、別当にとって世界がどのように見えていたかを考えてみれば、よくわかることである。別当には、馬頭親音は、なれなれしく接したり一緒に遊んだりしてはならないものとして現れていたはずだ。I、別当にとっては、馬頭親音との関係の内に、決して遠元すべきではない距離——崇拜を可能にする距離——が、カイザリしていかなくてはならないのである。別当が子供たちを叱ったとき、馬頭親音のこのようなあり方は、別当自身にとってまぎれもない「真実」である。

II、それは誤っていた。つまり、子供たちを叱るときに別当が「真実」として見ていたものは、別当自身が経験していたはずのものと異なっていたのである。この自分自身の否定が、別当の身体の上に兆候として現れることになる。

III 別当が病に倒れるのは、なぜだろうか？ 民間伝承の水準では、この病は、親音さまの復讐(ふしう)やたりとして解釈されるだろう。もちろん、このような解釈は、起こったことを直接に合理化するためのよくある虚構であり、病にかかったというこのトートロジカルな(同語反復的な)言い換えではない。

病という兆候は、次のことを意味しているだろう。子供たちと同様に、別当自身も、身体の水準では、「親音さまも楽しく遊びたいはずだ」、つまり「親音さまと親しく交わっても良いはずだ」ということを知っているのである。しかし、馬頭親音と遊ぶ子供たちを叱りとはしているとき、彼の言葉は、この身体の水準を裏切っていることになる。身体的な水準で見ているものを、言語的な水準——言語において記載される水準——で見ることができなかつたのである。身体がすでに見ていたものを言語の方が否定したことに対する、身体の反作用として、兆候(病)が現象することになるわけだ。

IV、別当にとっては、身体の水準で生きそして見ているものと、言語の水準で自らが「生きそして見ている」と自覚していることが一致していないのである。さらに、付け加えておけば、消極的には、子供たちにとっても同じ不一致があると言わなくてはならない。別当にしかかれ、それに従っている限りにおいては、子供たち自身も、その身体性の水準を正確に自覚しているわけではないからである。

(中略)

要するに、別当に対して現れている世界が、複層的に構成されているのである。すぐに言語化され意識される層、つまりさしあたって見えている層が、表層である。しかし、その下に、もう一つの層、身体的な層がある。しかも、これら二つの層はきれいに順接しておらず、逆接している(一方の層で見えていることが、他方の層で否定される)。この逆接が強い「無理」が、病として現れているのである。病は、言ってみれば、地の

表に露出した深部の地層のようなものである。

このような別当の世界の内的な複層性は、さらに、この説話が実感をもち語られ、受け継がれている共同体の社会構造自身がこれと同型的な複層的な構成をとっているのではないかと、この類推を誘う。観音像は、村落の共同体の統一性を保証するような超越性を具現しているだろう。説話は、この超越性を準拠点にして、二種類の（社会的な）関係性が張られていることを示している。一方には、観音像を共同体の中の生きた仲間のようなものと見なし、子供たちが楽しければ相手の観音像も楽しいはずだという快楽の相互反射の関係の内に観音像を位置づけるような感覚が生きている。つまり、超越的な存在が、相互反射的な二者関係から明確に離脱していないのである。しかし、他方で、説話は、「観音像をなれなく扱ったり、粗末にしてはならない」という禁止が成り立つような関係の様態が、この共同体の中に確立されていることも示しているだろう。この種の禁止が成り立つ関係とは、観音像を共同体の成員たちの相互的な規定の関係から距離化された場所に位置づけ、観音像の存在が——そして観音の超越性を代行するもの（たとえば説話の中では別当）が——一方的に成員たちの行為を規定するような関係のことである。別当の怒りの忠告が功を奏したことから示されるように、少なくとも表面的には、この共同体の内部では、後者の関係性が支配的なものとして現れている。

ア 関係性——超越的な観音を共同体内の相互的な反射の方に解消しようとする関係性——は、説話の中では、子供たちによって代表されている。もちろん、これは、別当の内的な世界の中では、身体性の水準に対応しよう。

イ 関係性——観音を隔絶した超越性として確保することで営まれる関係性——は、子供たちを叱る別当によって代表される。こちらは、別当の内的な世界においては、言語性の水準に対応する。最後に、表面的なウの優越とは裏腹に、究極的にはエこそが社会構造全体の要であり、オを支え規定していることを示す要素は、つまり病という身体的な光景に対応する社会構造上の要素は、巫女である。

先に、社会的な経験（見る）ためには、ある意味では、見ることを否定しなくてはならない、と述べた。経験の深層に到達するためには、表層における視点を離れ、もう一つの別の視点に移らなくてはならない。見ることの否定は、この視点の移行のための前提条件になるのだ。そして、移行先になるその「もう一つの別の視点」こそが、説話の中では、巫女によって具体化されているのである。要するに、〈社会学する〉ということとは、この巫女によって具体化されている視点を獲得することにはかならない。説話の中で、ただ巫女だけが経験されていることの（真実）を見ている。言い換えれば、巫女だけが、

X

できるのである。たとえば巫女は、別当でさえも、観音と人々との相互反射的な関係をすでに承認しており、そのような承認を基礎にして他の諸経験を積み上げているというところを見抜いている。〈社会学する〉ということは、つまり社会的な秩序を結節する経験の構成を認識するということは、まさにこの「人々はこれを意識しないが、しかし、これを行う」と言われるときのその行っていることを見ることにはかならない。

それにしても、社会的に重要なことは、別当や子供たちの経験の（真実）が、別当の内的な視点に対してではなく、また子供の視点に対してではなく、巫女というどちらにとっても他者である視点に対して、現れるということである。別当の悲劇をもたらししたのは、自ら自身が経験している世界が、自ら自身の視点に対して死角になっているということである。人が自ら行っていることを意識しないことの究極の原因はここにあり、行為や経験において選択されていることが、それに対して一貫性を呈するような視点は、まず第一義的には、行為したり経験している当人の視点ではなく、他者の視点なのである。だから、〈社会学する〉ということとは、どのような他者に対して、行為・経験の選択性が有意義なものとして現れているのかを見定めることである。行為・経験は、その他者に対して意味あるものとして意識されるのであり、行為したり経験したりしている

当人にとっては、さしあたって、把握しがたい不合理として立ち現れるのである。

以上の考察の副次的な産物として、われわれは、「抑圧されている」という状態がどういうことであるかを定義する術を得ることになる。抑圧されているということは、経験がそれに対して意味を有するところの他者の視点が、外的なままにとどまっている状態、つまり、そのような視点が、経験する者から奪われているような状態である、と定義することができるのである。たとえば、別当の内的な世界の中では、馬頭観音と並びたい、馬頭観音と相互に喜びを享受しても良いという感覚が抑圧されている。このような感覚が別当に所属しているのだが、そのような感覚の存在を証言してくれる視点を別当が我が物としていないからである。その視点は、他者の場所（巫女）に止まっているのである。同様に、社会的には、子供が抑圧されている。子供がやっていることの意味を証言する者がいないからである。だから、抑圧されている者は、本質的に、自らが何を行っているのか、自らが何者であるのかを語るべきでない者のことである。そうであるとすれば、社会学の課題を次のように言い換えることもできることになる。それは、抑圧されている者に証言への通路を開くことである、と。

（大澤真幸『近代日本思想の肖像』による）

（注1）柳田國男——日本民俗学の創始者（一八七五—一九六二）。『遠野物語』は、岩手県遠野地方の民話・民間信仰・年中行事などを記録したもの。

（注2）土淵村坊内——土淵村は遠野郷の村のひとつで坊内は地名。

（注3）馬頭観音——宝冠に馬頭をいただいた観音菩薩のこと。

（注4）別当——ひろく長官のことを称する語だが、この場合は寺の主人。神仏習合が行われていた時代には神社に付属する寺があり、その社僧の長を別当と呼んだ。

*問題作成上の都合により、本文の一部に手を加えてある。

問1 傍線部a～eのカタカナと同じ漢字を用いるものを、各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

解答番号は、a・17 b・e・21。

- | | | |
|---|------|----|
| a | サイロク | 17 |
| b | トウカ | 18 |
- ① 森林をバツサイする。

② 難民キユウサイに尽力する。

③ サイダイ瀾らさず点検する。

④ テイサイを気にして見栄を張る。

⑤ 話がサイゲンなく続いて終わらない。

① 商品をシュツカする。

② 女性にカタクして書かれた日記。

③ 芸術のシンカが発揮される。

④ 批判されてカジョウに反応する。

⑤ うわさのカチュウにある人物。

c ドウサツ

19

d カイサイ

20

e シサ

21

- ① 新しい技術をドウニユウする。
② 飛行機のドウタイに絵が描かれる。
③ 山の中のドウクツを採集する。
④ 幼なじみと遊びドウシンに戻る。
⑤ 人の物を奪うのは言語ドウゲンだ。

- ① 勝者がカイシンの笑みを浮かべる。
② 発音をテツカイする。
③ フカカイな出来事が起きる。
④ 年老いた親をカイグする。
⑤ 隣家とのキョウウカイを確認する。

- ① 経歴をサショウする。
② 感染地域がフウサされる。
③ 中古車をサデイスる。
④ あの言動は正気のサタではない。
⑤ キョウウサして犯罪に巻き込む。

問2

空欄 I N

に入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は、22。

- ① I — たとはば II — というのも III — むしろ IV — つまり
② I — たとはば II — つまり III — しかし IV — だから
③ I — しかしながら II — なぜなら III — さらに IV — なぜなら
④ I — しかしながら II — むしろ III — しかも IV — 要するに
⑤ I — というわけで II — つまり III — しかし IV — もちろん

問3

空欄 A B

に入る言葉として最も適当なものを、各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。解答番号は、A・23、B・24。

- A ① 革新的 ② 先駆的 ③ 学術的 ④ 重層的 ⑤ 神話的
B ① 常識的 ② 間接的 ③ 創造的 ④ 逆説的 ⑤ 消極的

問4

傍線部A「ここに、原初の社会学とでも呼ぶべき営みが記録されている」とあるが、筆者が土淵村の話をこのように捉えるのはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は、25。

- ① 土淵村の説話は、柳田國男が記録したもので、村に伝わる貴重な話が文学的に描かれていると考えられるから。
② 土淵村の説話は、素朴な民俗学と言えるほど庶民の営みが具体的に描かれ、社会学的な分析がしやすいと言えるから。
③ 土淵村の説話は、当時の子供から直接聞いて書かれたもので、出来事の信憑性しんぴやうせいが高く作り話とは思えないから。
④ 土淵村の説話は、巫女によって説明される出来事が、村の人たちが意識していないことを表象したものと考えられるから。

- ⑤ 土淵村の説話は、事件を解決する巫女を通して、出来事の当事者には見えないものが神秘的に描き出されているから。

問5

傍線部イ「(見る)ことは、見る(こと)の否定をも含んでいる」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は、26。

- ① 物事を深層まで理解するには自分の目に懐疑的になる必要があり、そのために見ていること自体を疑わざるを得なくなるから。
② 自分が見ている世界の真相を捉えるには客観的視点が必要なので、自分に見えている世界は主観的なものにすぎないと認めること。
③ 出来事を深く捉えるためには別の視点を得る必要があり、そのためには自分が見ている視点からいったん離れる必要があるということ。
④ 重層的に成り立っている社会の深部まで見通すには複眼的な考察が必要で、そのためには自身の思考を一旦停止するしかないこと。
⑤ 真の意味で物事を見るには表面的に見えているものを否定的に見ることが必要で、それは実際に目に入るものを退けるに等しいこと。

問6

傍線部ウ「別当が病に倒れるのは、なぜだろうか」とあるが、別当の病について筆者はどのように考えているのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は、27。

- ① 馬頭観音が子供たちと遊びたいと思っていることになつたく気づかず、頭ごなしに子供たちを叱りつけて観音から引き離したために、神仏の怒りを招いた罰として別当は病気になる。
② 子供たちが馬頭観音に乱暴を働いていると思ひ込み、別当はそれを許されない行為だとして子供たちを叱ったが、観音は彼らと遊びたかつたのではないかと考え直して急に病んでいた。
③ 馬頭観音に親しみたいという気持ちがあるが別当の心の底にあるのに、観音に親しみ一緒に遊んでいる子供たちを叱ったことで、自身の内部に亀裂が生じてそれが身体症状として現れた。
④ 別当は子供たちと馬頭観音の距離が近いことにもともと無意識の嫉妬があつたが、それがエスカレートして子供たちを叱りつけるという行為に発展したことで、自己嫌悪に陥り病になった。
⑤ 馬頭観音が子供たちと遊ぶことは自然なことなので、それを責めて子供たちを叱ったことは観音信仰を否定することになり、それに気づいた別当自身の心の崩壊が身体症状として現れた。

問7

傍線部エ「この説話が実感をもって語られ、受け継がれている共同体」に関する説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は、28。

- ① 観音像を共同体の統一性を象徴する神聖なものと捉えて信仰の対象とする見方と、共同体に快楽をもたず卑俗なものと捉えて遊びの対象とする見方が同時に存在し、超越的存在に對して一貫した態度がとれない社会構造のひずみがある。
② 共同体の仲間意識を高めるために観音を信仰の対象としているが、偶像を超越的存在として崇拝することを強いる不寛容と、一緒に遊んでなれなく拒絶することを認める寛容が同時に存在し、社会構造に道德的な揺らぎが見られる。
③ 身体的な水準で捉えたものが言語的な水準で捉えたものに否定されてそれが生じってしまう複層的な構造をもち、共同体の象徴である超越的存在に對して成員が親近感を持てるように、言語の水準に従つて個人に求める構造になっている。

④ 超越的存在によって統一性が保証される共同体の成員は、崇拜する対象と距離を置いた関係を楽しんできたが、それを快楽の相互反射の関係の内に位置づける感覚が成員の無意識の層で生じてきて、社会構造が二方向に分裂している。

⑤ 共同体の連帯意識の象徴となる超越的存在を仲間として親しく位置づける関係性で、超越的存在を崇拜の対象として距離を置く関係性が同時に存在し、二つの関係性が整合することなく社会構造のなかに積み重なっている。

問8

空欄「ア」「オ」に入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は、29。

- ① ア——前者 イ——後者 ウ——前者 エ——後者 オ——前者
② ア——前者 イ——後者 ウ——後者 エ——前者 オ——後者
③ ア——前者 イ——後者 ウ——後者 エ——後者 オ——前者
④ ア——後者 イ——前者 ウ——前者 エ——前者 オ——後者
⑤ ア——後者 イ——前者 ウ——前者 エ——後者 オ——前者

問9

空欄「X」に入る最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は30。

- ① 人々が無意識のうちに罪をうとしていた《真実》を暴くこと
② 人々が意識することなくゆがめてしまつた《真実》を正すこと
③ 人々がそうとは意識することなく行っていることを見ること
④ 人々がなんの気なしにやってしまったことを意識すること
⑤ 人々が日常の経験として行っていることを承認すること

問10

傍線部「オ」以上の考察の副次的な産物として、われわれは、「抑圧されている」という状態がどういふことであるかを定義する術を得ることになる」とあるが、どういふことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は、31。

- ① 社会的な行為や経験の意味することが、常人ではなく超人的な視点によってしか解明されないというところが明らかになったので、行為したり経験したりする本人が自身のふるまいに無自覚な状態が「抑圧されている」といふことだと考えること。
② 社会的な行為や経験のもつ真実が、本人ではなく他者の視点によってしか現れないということがわかったので、行為したり経験したりする本人が自身の行為や経験の意味がわからなくなっている状態が「抑圧されている」といふことだと考えること。
③ 社会的な行為や経験の真の姿は、その本人にはまったく理解することができないということが証明されたので、行為したり経験したりする本人が常に他者の視線を意識している状態にあることが「抑圧されている」といふことだと類推できること。

④ 社会的な行為や経験の意図が、その本人ではなく超越者の視点に照準を合わせたものであることがわかったので、行為したり経験したりする本人から自身の意思が失われ、他者の意向に従っている状態が「抑圧されている」といふことだと考えること。

⑤ 社会的な行為や経験は、その社会とは無関係な者によってしか真相を究明できないことがわかったので、行為したり経験したりする本人が理不尽に自由を奪われ、そのことを認識できない状態にある

ることが「抑圧されている」といふことだと考えられること。

問11

《社会学する》という点について、本文の趣旨を踏まえて説明したものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は、32。

- ① 《社会学する》ことは、土淵村の説話の当事者のように社会的に弱い立場の人間の行為や経験に対して、合理的な意味を与えて社会の構造を理解しやすくすることである。
② 《社会学する》ことは、抑圧されている側の視点から社会構造を捉えることで、それによってどのように抑圧されているのかを、社会的弱者が自身で直言できるようになる。
③ 《社会学する》ことは、さまざまな秩序を社会的な水準にあてはめて考えることで、土淵村の説話の別当のように自身の行動や経験の意義を分析して認識することができる。
④ 《社会学する》ことは、土淵村の説話の巫女の視点に立つことに当たり、ある社会に生きる人間の行動や経験を見て、社会がどのような構造になっているのかを看破することである。
⑤ 《社会学する》ことは、社会がどのような構造で成り立っているのかを見抜くことで、土淵村の説話の巫女のように、その社会に生きる人間が抑圧されている証拠をつかむことができる。